

## バスに関する意識調査におけるアンケート実施概要について（案）

### 1 調査概要

#### (1) 調査目的

秋田市内のバス利用者及び非利用者に対する通常期と冬季のバス利用における意識の把握を目的に実施。

#### (2) 調査対象者

秋田市内に在住の 18 歳以上の 6,000 人を対象とし、回収率 10%程度を想定している。

#### (3) 調査期間

2 月中旬～下旬と設定する。

### 2 調査項目および設問事項

調査項目は秋田市内の路線バスの利用実態や利用意向などからなる利用特性と、現在のサービスに対する満足度もしくは、利用を誘発するためのサービス水準を確認するための設問とする。

設問項目一覧を次頁に示す。

### 3 調査票（案）

調査項目及び設問事項を踏まえた調査票（案）を参考として示す。

▼調査項目および設問事項（案）

視点	把握項目	設問事項		結果の活用
		既利用者	非利用者	
利用特性	回答者属性	・性別 ・年齢 ・職業 ・居住地区		—
	行動実態	・路線バスの現在の利用状況		<input type="checkbox"/> 満足度把握のための基本情報 <input type="checkbox"/> バス停間 OD 予測のための補完データ
	利用状況	・乗り降りしているバス停 ・利用している時間帯 ・利用頻度 ・利用目的 ・利用する理由 ・定期券利用状況	・乗り降りが見込まれるバス停 ・利用すると思われる時間帯 ・想定される利用頻度 ・想定される利用目的 ・想定される利用理由 —	
満足度（冬季と冬季以外で回答）	全体の満足状況	・現在の満足状況 ・サービスにおける不満状況	— ・バスを利用しない理由	<input type="checkbox"/> 幹線バス路線が担保すべきサービス水準の設定
	運行間隔	・現在の運行間隔は満足か ・どの程度の運行間隔を望むか	・運行間隔へのイメージ ・どの程度の運行間隔であれば利用したいと思うか	
	所要時間	・バス利用区間を車で移動したときの所要時間 ・現在のバス乗車中の所要時間 ・現在の所要時間の満足度 ・具体的な所要時間イメージ	・想定するバス利用区間を車で移動したときの所要時間 — ・バス所要時間へのイメージ ・乗車中の所要時間がどの程度であればバスを利用したいと思うか	
	定時性	・現在利用路線の遅れ時間の認識（実際の遅れ時間は別途バス実態調査にて把握） ・許容できる遅れ時間	・バスの遅れ時間へのイメージ ・許容できる遅れ時間	
	乗継抵抗	・現在の乗継状況（回数・バス停） ・乗継増加に伴う利用意向の変化 ・乗継ぐ場合に重要視する必要機能	— ・乗継回数とバス利用意向の関係確認 ・乗継ぐ場合に重要視する必要機能	
	料金	・現在の料金の満足度 ・具体的な料金設定イメージ	・バス料金へのイメージ ・具体的にどの程度の料金ならバスを利用したいと思うか	